



被爆体験伝承者等派遣事業を利用して

- 会員の自由な投稿のひろば -

群馬県立前橋清陵高校 田口 有理

被爆体験伝承者を無料で全国に派遣

人権教育係として、年1回人権問題に関する講演会を企画している。今年度は、最大の人権侵害である戦争、核兵器による被害を知る講演会を実施することにした。今年度から厚生労働省と広島市、長崎市が協力して始めた被爆体験伝承者を無料で全国に派遣する事業が始まったことを知り、これを活用することにした。(というよりこの事業を知って、今年度のテーマを決めたという方が正しいのですが)

あまりに若い伝承者

年度初めに申し込みをし、しばらくして事務局である国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館より派遣者についての情報が送られてきた。松野世菜さん、長崎純心大学2年生。長崎出身で、小学生のころから当たり前のように平和学習をしてきたが、中学生の時に長崎県外の人は原爆投下の認知度が低いことにショックを受け、高校3年生の時に交流証言者活動に参加し、昨年より被爆体験伝承者としてデビューした。彼女とはメールで何度かやりとりをして準備をしたが、正直なところあまりに若い伝承者で、戸惑いがあった。

不安は吹き飛んだ

講演会当日、長崎から来たかわいらしいお嬢さん(という表現は人権教育係として不適切であると承知であえて)を迎え、若干の不安も抱いた。しかし、講演会が始まると、戸惑いも不安も吹き飛んだ。(前言撤回するとともに偏見を抱いた自分が恥ずかしい)彼女はまず、自分がなぜ被爆体験伝承者になろうと思ったかについて説明したのち、被爆体験

者の山脇佳朗さんについて画像を交えて丁寧に説明し、本校生に対して平和について自分の問題として考えてほしいと締めくくった。その後の生徒や教員からの質問に対しても誠実に答えてくれた。力強く声高に、というよりも内なる情熱を持ちながら淡々と、という印象であった。

DVDを超えるリアリティー

生徒の感想文を読むと、自分たちと年のほとんど変わらない若者が被爆体験伝承者として活動していることに驚き、その話しぶりに感動している様子がかがえた。また、講演会の前に授業で「にんげんをかえせ」という原爆についてのDVDを見せたのだが、実際の映像よりも松野さんの話の方がリアリティーを持って受け止められたようで、被爆体験者でなく伝承者であっても生身の人間から直接きくことはパワーがあると感じた。

多くの体験者が亡くなる中で

被爆体験者、戦争体験者は既に多くの方が亡くなり、またご高齢になり、直接体験をきくことは困難になっている。しかし、松野さんのような若い世代が伝承者となり、同世代に伝えることは大変有意義であり、効果的な方法でもある。

この事業を活用してほしい

この事業は20人以上が聴講する平和学習で利用できる。(少人数であっても相談に応じるとのこと)関心を持たれた方は、ぜひ活用してほしい。(伝承者は松野さんのような若い人ばかりではありません。様々な年代の方がいますが、研修を受けて活動されています。)